

風の萌

特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・
市民全国ネットワーク機関紙

第 044 号

2018 年 11 月 30 日

安心して子育てができ 老いても障がいがあっても 自分らしく暮らすことができる コミュニティーの創造

大阪大会終了、そして東京大会へ。

大阪大会が無事終了しました。岡崎大会長、お疲れ様でした。
今大会は大阪らしい賑やかさと多彩なシンポジウムが有って
大いに盛り上がりました。
そして、次回東京大会の三嶋大会長、宜しくお願いします。



大阪大会 実践交流会報告

優秀賞

カテゴリー1 在宅生活の継続

タイトル	A L S 患者支援を通して学んだケアマネジャーの役割 ～寄り添うことで得た信頼関係～
所 属	秀峰会 豊稗の大地 介護保険センター
氏 名	本田 佐和子
選定理由	経験からしっかりと学び率直に学びを共有しようとする姿勢が素晴らしかったと思います。他の専門職に相談できる姿勢・後見に伝えることの重要性を強調していた。

カテゴリー2 訪問サービス・通所サービス

タイトル	卓球療法の取り組みと行動変容の成果～卓球療法を展開し地域、利用者様の活動範囲を広げる～
所 属	特定医療法人フェニックス
氏 名	吉田 親吾
選定理由	新しい取り組みであり、実際の取り組みについて具体的に知りたいと強く感じられた。

カテゴリー3 緩和ケアと看取り

タイトル	「ここがよか」と言われた方の看取りについて ～本人の思いに沿った高齢者住宅での支援～
所 属	フラワーホームホームヘルプサービス
氏 名	樋口 里子
選定理由	高齢者住宅での緩和ケア・看取り、その後葬儀まで施設内で実施している。本来の地域の生活とはこういうもの。それを実践していること及び取り組みへの姿勢を評価したい。

カテゴリー4 人材育成・教育

タイトル	得意を活かした全員参加の人材育成への取り組み
所 属	社会福祉法人ダイヤライフ福祉会 ユニット型特別養護老人ホーム絆の広場
氏 名	池畠 公一
選定理由	定年退職を期に入職した新人職員に対する指導方法について「年上の人に意見をすること」が苦手だった自分を超え、他のスタッフに相談しながらOJTを行っていったところを評価したい。

カテゴリー5 地域で支える認知症ケア

タイトル	充実した日々を編む～手作業を通しての関わり～
所 属	萌気園浦佐有料老人ホーム『ハイマート・ハイム』島田
氏 名	佐藤 佳範
選定理由	利用者様が作られた作品を施設内だけでなく地域（小学校）で交流を持ち作品を展示されていました。地域を巻き込んだ関わり、小学生との交流がまさに地域包括ケアと思いました。

カテゴリー6 口腔ケアと栄養管理

タイトル	施設での義歯治療により、食形態改善と笑顔を取り戻す
所 属	医療法人 大谷歯科
氏 名	大谷 学
選定理由	高齢で胃ろう経験者で介護度4の困難ケースを義歯の咬合形態の修正・咀嚼機能の改善、指導、口腔リハビリ等の取り組みで改善させた複数の報告でした。何よりも患者さんの笑顔を取り戻すことを目標に実践されている報告でした。施設以外在宅での取り組みの指針となる実践報告でした。

カテゴリー7 これからの地域包括ケア

タイトル	これからの地域包括ケア、地域共生社会へ 入口は地域から客体から主体へ 主役は市民！
所 属	ゆいの里、ソーシャルケアワーカー集団 しもつかれいど
氏 名	飯島 恵子
選定理由	包括ケア、共生ケア素晴らしかった。

カテゴリー8 新しい試み

タイトル	松戸市在宅医療・介護連携支援センターの紹介 連携支援センターの紹介
所 属	医療法人社団 実幸会 いらはら診療所
氏 名	佐々木 穰史
選定理由	地域包括ケアの推進において重要な行政との関わりに関して参考にすべき内容であった。

カテゴリー9 薬と生活

タイトル	訪問薬剤はどのように必要なのか ～私にはおばあちゃんがたくさんいます！～
所 属	アイ薬局
氏 名	寺本 理智
選定理由	多職種とのアナログな連携が薬局で行われ地域に根ざしている。在宅ケアを支えていることがよくわかった。



フォローアップ推薦

カテゴリー1 在宅生活の継続

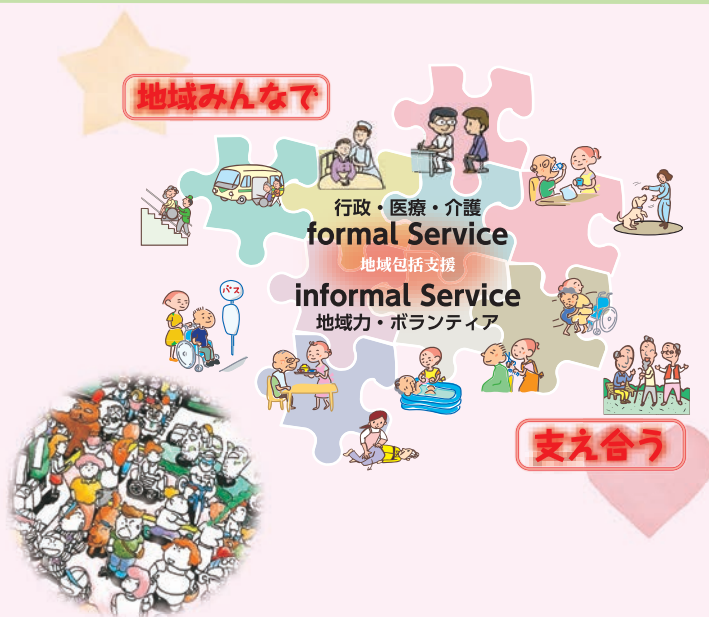
タイトル	伝えたい！生の声！ ～在宅サービス利用者の想いと自立支援の形～
所 属	社会福祉法人慶生会 慶生会訪問看護ステーション 住道出張所
氏 名	新垣 卓哉
選定理由	利用者・家族・そして多職種の「生の声」をひき出し共有する取り組みは連携に不可欠と感じます。ぜひ継続し次回もご発表下さい。

タイトル	お兄ちゃんやったら、何とかしてくれる……？
所 属	菜の花ケアプランセンター
氏 名	高原 喜子
選定理由	困難事例へのアプローチは誰もが苦しみ避けたいものであるが、前向きに解決に向けた取り組みを継続している。次回の発表を期待する。

カテゴリー2 訪問サービス・通所サービス

タイトル	在宅生活者を支えるための看護小規模多機能型居宅介護事業所の役割
所 属	医療法人あいち診療会
氏 名	橋爪 明美
選定理由	今後の在宅支援、住み慣れた地域で最期まで支援サービスとして充分期待できる。楽しみにしています。

大阪大会の実践交流会は、9カテゴリー 82 演題の発表が有りました。どれも活発な交流が有り、その内 23 演題が優秀賞／フォローアップ推薦を受けています。座長の推薦文と共に、選ばれた演題を紹介します。



カテゴリー3 緩和ケアと看取り

タイトル	人生の最期を決める「意志決定支援」～ケアマネジャーとしての関わりを振り返って～
所 属	ゆうらいふ居宅介護支援事業所
氏 名	深田 知洋江
選定理由	今回の振り返り：（臨床倫理 4 分割法）を用いてのその後の意志決定支援についての報告を聞いてみたい。

カテゴリー4 人材育成・教育

タイトル	退院後の生活状況の調査により見えてきた課題～移動と排泄関連動作に着目して～
所 属	メディカルコート八戸西病院
氏 名	階上 弘樹
選定理由	発表された行間をさらに深めて知りたいのでフォローしたい。

タイトル	負担の少ない介護の実践にて働きやすい職場環境を目指して～介護ロボット・福祉用具を使いこなせる人材の育成～
所 属	老人保健施設 ラポール吉井
氏 名	新 智哉
選定理由	発表された行間をさらに深めて知りたいのでフォローしたい。

カテゴリー5 地域で支える認知症ケア

タイトル	周認知症の高齢者やご家族が、安心して暮らせる地域作りの一環として
所 属	介護センターみやぎⅡ
氏 名	西村 徹
選定理由	認知症の情報誌にここに新聞をイラストを入れて作成され訪問先の利用者・家族に配布されています。

タイトル	懐かしい紙芝居で認知症ケア
所 属	医療法人社団萌気会 萌気園有料老人ホームすみれ草
氏 名	川部 伊佐夫
選定理由	昔懐かしい紙芝居を上演し職員に気づいた点「いわ！カード」での報告してもらい次回につなげていた。

カテゴリー6 口腔ケアと栄養管理

タイトル	人生の最終段階における口から自力で食べられる喜びと大切さ
所 属	特定非営利活動法人ゆうらいふ 小規模多機能型居宅介護事業所花梨
氏 名	江川 萌美
選定理由	パーキンソン病、口腔ディスキネジアの困難条件のケースで長期に渡り、栄養士と介護職中心に他職種連系の力で成果をあげたケースの報告で、素晴らしい実践報告でした。歯科医師、歯科衛生士との連系について深めていってほしい。

タイトル	誤嚥を予防した経口摂取の維持で全身状態が改善した一例
所 属	医療法人みどりグループ リハビリセンター大村
氏 名	坂本 賢一
選定理由	SPO2低下と発熱が強く困難ケースで長期にねばり強く取り組んだケースの報告。介護食分類の低下。悪化の中でも、工夫をかねての支援で回復を図った素晴らしい報告。義歯の評価や歯科との接点を更に深めてほしい。

カテゴリー7 これからの地域包括ケア

タイトル	多機能型精神科診療所をベースとした地域包括ケアの試み
所 属	ささえ愛よろずクリニック
氏 名	今村 達弥
選定理由	貴重な活動の取り組み、さらに今後期待が大きい。

タイトル	広がれ、訪問栄養食事指導！
所 属	医療法人社団静実会 ないとうクリニック
氏 名	伊藤 清世
選定理由	在宅支援の取り組みを期待します。

カテゴリー8 新しい試み

タイトル	リハビリテーションネットワークから地域を元気に！
所 属	社会福祉法人慶生会
氏 名	文野 勝利
選定理由	行政との関係を取り入れた多職種の働きに今後の進展を期待する。

タイトル	グループホーム内で大腿骨転子部骨折後保存療法を行い感じたこと
所 属	医療法人宮城会 宮城医院
氏 名	濱田 颯太
選定理由	認知症の高齢者に対する治療方法を決定するには迷いがあるところであるが、手術がよいのか保存的でもここまでやれるといったデータがもう少し症例を増やし検討いただきたい。

カテゴリー9 薬と生活

タイトル	ICT を活用した保険薬剤師と多職種との連携事例
所 属	株式会社 アインファーマシーズ アイ薬局 八戸店
氏 名	根本 昌幸
選定理由	ICT の活用に対し今後に期待します。

私の
こだわり

「日々復習と予習をする」



堂垂 伸治 どうたれ内科診療所 院長
(千葉県松戸市)

私にとって「こだわり」の第1は「医師の倫理観を保つこと」です。しかし、これを記すと堅苦しいので、今回は表題のごときものにします。

初期研修などの4年間終了後、自らの医療実践の場を千葉県松戸市と決めました。松戸市では、病院で9年、開業して20年働いています。

勤務医時代は、早朝と夕方の1日2回、病棟回診を習慣としてきました。患者さんの病状によっては、土曜午後や日曜も夜間も病院に行っていました。こまめに診察していると病状変化に迅速に対応でき、間違いが起こらなかったからです。患者さんはもとより、病棟看護師にも主治医にも“三方よし”でした。

開業後は、「**病院内科外来と比べても遜色ない診療を行う**」という理念でやってきました。患者さんは、往々にして「罹患している疾患」と「致命的になる病気」は異なっています。従って、「総合的な観点で患者さんに必要な検査」を、迅速かつ適宜病院に紹介してきました。文字通りの病診連携を行ってきました。また病院で携わっていた「在宅医療」も継続してきました。これらの診療内容の水準を保つ「私のこだわり」は、“**日々の復習と予習**”です。

外来終了後、診察した全員のカルテを復習しています。「見落とししていないか」、「偏った見方をしていないか」、「やるべき検査がないか」、「必要な書類を書いているか」、「保険診療に従っているか」等々の「復習と予習」を必ず行っています。この復習作業は、若い頃は午前診察前の早朝に行っていました。今では書類書きなどの業務量も大変増え、診察終了後と翌朝の2回行っています。

在宅患者さんでは日々の復習以外に、月2回「精査復習」も行っています。集中して振り返ると、病状の進行度合いや予測も可能だからです。

当院では採血結果は翌朝にPCで送られてきます。その結果をきめこまかにチェックし異常値の方や心配な方をピックアップしておきます。毎朝のスタッフ・ミーティングで、当該患者さん呼び出しや助言したり、訪問して点滴したりと、看護師や事務員に指示しています。可能な限り「水も漏らさぬ態勢」で臨んでいます。

通常、外来診察は「一過性」です。従って、とすれば、惰性或固定観念や「思い込みで診る」など、偏った診察に陥りがちです。日常診察では、極めて希な疾患や重症疾患に出会うこともあります。こうした「一過性診察の弱点」を、このカルテ復習は補えると確信しています。毎日が時間に追われる日々だからこそ、じっくり考える時間を持つことは重要だと感じています。特に在宅医療では、患者さんの生活や家庭状況に配慮した対応も求められます。「熟考する時間をとること」は、患者さんも守るし、開業医の診察水準も高める方法だと思っています。

思うに私たちは患者さんの命を預かる職業です。「やりっ放し」や「その場限り」の診断や治療だけでは不十分で、「うっかりミス」も生じかねません。「超難問の疾患」とも遭遇することもあります。日々の復習や反省～それに伴う予習を通して「お互いに安心する医療」が生まれると確信しています。日本の全ての医療現場でこれを行えば、医療レベルが向上し患者さんと医療機関の信頼が深まると考えています。

医療法人 緑星会 どうたれ内科診療所
〒270-2261 千葉県松戸市常盤平 1-20-3
TEL.047-394-0600 FAX.047-394-0610
<https://www.doutare.com/>

診療方針

- ☆ 患者さん本位の医療
- ☆ 厳格な臨床と親身の医療
- ☆ 人間を大切にする医療
- ☆ 地域住民の方に信頼される医療
- ☆ 働く職員も誇りをもち充実できる医療

「第25回全国の集い in 東京 2019」 プレ大会

2019.1.12 に 東大安田講堂 に集まろう！

東京大会実行委員長 どうたれ内科診療所 堂垂伸治

19年1月12日に東京大学安田講堂で“2019 団塊・君たち・未来”と題して会を開催致します。これは当ネットワークの「第25回全国の集い in 東京 2019」のプレ大会です。

2025年には団塊世代は全て75歳以上になり、医療や介護の本格的な対象になります。この世代の少なからぬ人たちは、全共闘運動を担い、その後市民運動や社会運動を駆けぬけてきました。彼らは、「学問とは何か」「大学とは何か」「社会に出て行くことは何か」などを真剣に議論し考えました。当時の「常識」や「権威」を疑い、物事の本質・根源を問いました。この姿勢は、医療や介護の分野でも引き継がれ、在宅医療や介護保険の流れにつながったとも言えます。

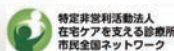
団塊前後世代はその後、「排除」されたり、社会参加を忌避したり、既存社会に参

画（同化）したりしました。人生を変えた人、志を胸にしまい沈黙し働き続けた人等々、その後さまざまな人生を歩んできたと思います。すでに病に斃れた人、認知症になった人もいます。

歴史を振り返ると、150年前は明治維新があり、100年前は第1次世界大戦終結・ロシア革命がありました。そして50年前は日本では全国学園闘争・ベトナム反戦闘争があり、全世界的には「若者たちの反乱」がありました。東大安田講堂は当時の象徴的な場所です。

今回、これらの歴史的な視点を踏まえ、団塊前後世代・次世代・若い世代が相互交流・意見交換し、「未来に繋がる提言」を伝える場としたいと思っています。多くの皆様の参加をお待ちしております。

第25回 全国の集い in 東京 2019 プレ大会



“2019 団塊・君たち・未来”

日時 2019年1月12日（土）13時半～18時（受付開始 12時半～）

会場 東京大学 安田講堂 資料代：2,000円

※懇親会 18時～20時半 東京大学 中央食堂：3,000円

主催者挨拶

司原 実（ネットワーク会長/いらは診療所）
飯島 勝矢（東京大学高齢社会総合研究機構教授）

第1部 地域包括ケアと私たちの責務 座長 亀井 克典（医療法人生寿会）

地域包括ケアと在宅医療
— 2040年を考える

新田 園夫 全国在宅医療支援診療所連合会 会長

団塊世代の責務

結城 康博 淑徳大学教授

第2部 団塊～次世代が語る

座長 中嶋 久矩（ネットワーク 理事）
平野 敏夫（亀戸ひまわり診療所）

高齢者の人権と平和憲法

山下 江 弁護士

医学教育はどうあるべきか

阿部 知子 衆議院議員

介護現場から社会を変える

三好 春樹 生活とリハビリ研究所

外国人医療から見た憲法の危機

沢田 貴志 港町診療所

下流老人の問題提起とその意義

藤田 孝典 NPO法人 ほっとプラス

地域包括ケア・石巻市の経緯と現状

長 純一 石巻市立病院開成仮診療所

第3部 未来を語る

座長 黒岩 卓夫（医療法人萌気会）

地域包括ケアと健康民主主義

鎌田 實 医師・作家

「第25回 全国の集い 東京大会」紹介

三嶋 泰之 大会長（さくら風の村訪問診療所）

総合司会

第25回 全国の集い in 東京2019 実行委員長 堂垂伸治

お問い合わせ先 どうたれ内科診療所 TEL: 047-394-0600（担当：長谷川、奥井）

FAX: 047-394-0610 E-mail: doutare@apricot.ocn.ne.jp

リレー寄稿

医) 地の塩会

「地の塩」とは、マタイによる福音書のなかの「あなた方は地の塩である。」の言葉が由来です。私なりの解釈では「それぞれ自分の持ち味を生かして共生していきましょう。」の意です。

とだ小林医院

：整形外科 内科 リハビリテーション科 リウマチ科

みなし指定事業所

：訪問リハビリテーション 訪問看護 居宅療養管理指導

戸田東在宅介護支援センター：居宅介護支援事業所



我が埼玉県戸田市の地域包括ケアシステム ～小さな活動の積み重ねもありかな～

—埼玉県戸田市—

医) 地の塩会 とだ小林医院

小林 洋一 医師 (整形外科)、ケアマネジャー (未更新)、

戸田市介護支援専門員連絡協議会会長、

戸田市介護認定審査会会長、戸田市地域包括運営協議会副会長、

戸田市地域ケア推進会議委員



こんにちは、ただの野次馬会員の私がバトンを受け取ってしまった感が強いのですが、我が地域の地域包括ケアシステムの現状について、私なりの説明をしたいと思います。

埼玉県戸田市は埼玉県の南部にあり、南に荒川があり対岸は東京都板橋区になります。面積人口など詳細は「厚生労働省見える化システム」でご覧いただければと存じます。現在は出生数も多く「若い」地域ですが、今後超急速な高齢化が予測されている地域であり、その対処としての地域包括ケアシステム、地域共生社会の構築が必要とされています。高齢化対策と同時に子供たちを育む街作りも行わねばならない地域でもあります。

私は普通に手術もする整形外科医でしたが、いつの間にか手術より介護保険と変化していきました。ある日高校の先輩である畑恒土先生から「第7回全国の集い in 東京 2001」のお誘いを受け参加したのが、貴ネットワークとの出会いでした。参加してみたら大学の同級生である新潟県小出町の上村医院上村伯人先生が発表をしていたなどがあり、何かを吸収して地元で役立てようと思い、以来できるだけ参加させていただいています。畑先生にはお会いするたびに「小林さん年会費がまだのようですが・・・」とお声かけ頂くほどに認知していただけるようになりました。

地元の活動としては、戸田中央リハビリテーション病院のご協力を頂き「戸田蔵地域リハビリテーション研究会」が年2回開催を継続しています。多職種の方々の参加をいただき、顔の見える連携の一つとなっており、現在進行中の介護予防事業における協働にも繋がったと思っています。

埼玉県のモデル事業からはじまった「蔵戸田市在宅医療支援センター」とMCSを使用したICTによる連携も始まり、医師会の企画による、ICTの使用法などの講義と連携会（食べる飲む含む）も回を増すほどに参加者も増えています。

戸田市介護支援専門員連絡協議会は、戸田市には

任意団体にもかわらず地域包括支援センター運営協議会に2人の委員を参加させていただいています。逆に転勤などにより実働理事が少なくなるなど任意団体の辛さも味わいながら、継続していける運営方法を模索しています。

そして第17回全国の集い in しんしゅう2011において、あかはね内科・神経内科医院の唐木千穂先生の「小さな勉強会 in 松本」の発表を拝見し、パクらせてくださいとお願いをして許諾の即答をいただきました。以来「小さな勉強会 in 戸田」と称して、当院とお付き合いのある、多職種、市議会議員、町内会など市民の皆さんなどにお声をかけて、当院の待合室で、ショートレクチャーであったり、ワールドケアカフェをしたりしています。

埼玉県地域リハビリテーション推進事業の一環として「TODA 元気体操」が戸田市内17か所で行われています。

またNPO法人グリーンガーディアンさんと戸田市社会福祉協議会さんが、医)翔誠会 ふくだ内科さんの診療所の待合室を利用した「地域サロン ふくふく」(月2回)の活動もあります。

隣の川口市では川口市医師会に「県南在宅医療研究会」があり、杉浦医院杉浦敏之先生(著書「死ねない老人」幻冬舎MC)を中心に、ご高名な講師の講義の回、地元の地域包括ケアの現状など報告の回と毎回多職種約100名の参加者で行われています。

私はこの数年間地元医師会の仕事を干されていますが、「頭に来てアホとは戦うな」(朝日新聞出版)を読んで思ったことは、任意団体や、自院で好きな活動が出来るのかえって良かったのでは?でした。そして意識の高いマイノリティ(?)たちが活動을續けて、ボトムアップして地域包括ケアシステムに繋がっていけば地域は少しハッピーになるのかなと前向きに考えています。

次回は、埼玉県さいたま市 訪問看護ステーション ぽけっとの上田浩美さんをお願いします。(小林洋一)

▶ 東京大会実行委員がスタート ◀

大阪大会が成功裏に終了し、次年度に向けて「**全国の集い in 東京 2019**」の実行委員会が11月17日に本格始動を開始いたしました。・・・とはいいつつ既に数回「準備委員会」として開催され会場は決定、具体的なシンポジウムなどの企画・提案もすでに提出され、検討が始まりました。各々の企画の提案段階にも拘わらず既に活発な議論も戦わされて(?)おり、大会当日のシンポジウムが既に開始されているかのような活況です。



今回の東京大会は「**地域医療研究会**」との合同開催が決まっており、実行委員としてそのメンバーが加わった形で検討が進められております。

その意味でも今までにない多彩な企画を行い、大いなる盛り上がりを目指して今後検討を重ねてまいります。

大会実行委員長の堂垂伸治先生が中心となって企画されている「**東京プレ大会**」(1月12日)はこの号でもお知らせしておりますが、**東京大学の安田講堂**において実に多彩な先生方によるシンポジウムが予定されております。首都圏在住の会員の皆様方の多くのご参加をお待ちしております。

詳しくは (<http://www.home-care.ne.jp/nw/newsjimukyoku/25-in-2019.html>) をご参照ください。

理事会報告

第2回 理事会

日時 11月25日 09時15分より

場所 東京駅八重洲口北口 貸し会議室(前回と同じ)

出席理事 秋山 石田 大澤 苛原 桑原 長 中島(肇) 中嶋(久矩) 畑 宮坂 藤村 吉永
石田賢二(長崎 おおむら大会長)

(敬称略)

今回は大阪大会報告、東京大会進行状況、東京プレ大会についての報告、動員依頼、次期大会に向けた理事会企画の提案等がありました。

東京大会の翌年は長崎で行われることは既にお伝えしておりますが、今回は大会長より大会名が「**長崎 おおむら大会**」という名称になり既に実行委員の選定も開始も行っている旨の報告がされました。



長崎 おおむら大会
石田賢二大会長



→→→ 事務局統合のお知らせ ←←←

現在名古屋と東京に分かれて事務局業務を行ってまいりましたが、今後の多様化、効率化を目指して東京に統合します。

従いまして会員の皆様からの問い合わせ等につきまして以下のように変更願います。

メールによる 入会、退会、その他お問い合わせ	→	現在の東京事務局の アドレスの変更はありません。 (tokyo-jimukyoku@home-care.ne.jp)
ホームページからのお問い合わせ	→	URL の変更はありません (http://www.home-care.ne.jp/)
(1月1日より) 電話でのお問い合わせ	→	047-347-2231 浅沼、田中まで
FAX でのお問い合わせ	→	047-347-2551
郵便、その他の宅配等送先	→	〒270-0021 千葉県松戸市小金原 4-3-2 いらはら診療所内 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク 東京事務局

会員の皆様には極力ご負担の無きよう対応いたしますのでご安心ください。

活動予定

東京プレ大会 2019年1月12日 場所…東京 会場…東京大学 安田講堂	第3回理事會 2019年2月24日 場所…東京	佐倉プレ大会 2019年5月25日 場所…佐倉市	第4回理事會 2019年5月26日 場所…東京	第5回理事會 2019年8月25日 場所…東京	全国の集い 東京大会 2019年9月15日・16日 場所…東京
---	-------------------------------	--------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	---------------------------------------

風の萌は電子配信になりました。

44号から、「風の萌」は印刷出版物の郵送から、電子配信でPDFデータを送信する事となりました。会員情報でメールアドレスを登録されている方が対象となります。同時期にホームページからダウンロード出来る様になりますのでメールアドレスを登録されていない方はそちらから入手して下さい。

風の萌

2018年11月30日発行(第044号)

- ◆ 発行 特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク
TEL: 052-848-8800 FAX: 052-848-8801
http://www.home-care.ne.jp/net/ E-mail: zenkokunet@home-care.ne.jp
〒458-0049 愛知県名古屋市天白区福池2-330-2 あいち診療所野並内
- ◆ 編集「風の萌」編集委員

∞∞∞編集後記∞∞∞

平成最後の年も残り1ヶ月です。
来年は新しい年に相応しく何かチャレンジ出来ればと考えています。
皆様にとって良いお年になります様、お祈り申し上げます。

(東京事務局／犬童)